

淀川にイタセンパラが戻ってきた！

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

福崎由樹

ぼくは、淀川にイタセンパラを復活させる活動に参加しています。イタセンパラは天然記念物の魚で、秋に二枚貝に卵を産みます。この活動は2012年4月から始まりました。ぼくは3年生でした。活動場所は城北ワンドの34号35号です。20くらいあるワンドのうちの2か所です。月2回土曜日から日曜日の9時から始まります。だいたいいつも30人くらいの大人の人や大学生、高校や中学のクラブ活動で参加する人など、色々な人が来ます。ぼくたちは、地びき網という方法で魚をとっています。ほかにも、川のごみを拾ったり、水面が増えて川に入る光を減らす外来植物を抜いたりもします。

よくとれる魚は、タモロコ、ニゴイ、カネヒラ、カマツカ、オイカワ、ヨドゼゼラです。ヨドゼゼラは5年前に発見された新種です。めずらしい魚はヒガイ、ドジョウ、ナマズ、シロヒレタビラです。

5月と10月には外来魚くじょ釣り大会があります。釣りざおを無料でレンタルして、城北ワンド全体の外来魚を、みんなにくじょしてもらいます。毎年200匹以上釣れています。時々在来魚が釣れます。その在来魚は水槽に入れて展示しています。1回だけ地引網を引く時間があります。参加した人に捕れた魚の名前や特長を説明します。

2012年のはじめのころは、外来魚がとても多かったです。一番多かったのは、ブルーギルです。ブラックバスもたくさんいました。春にブラックバスの稚魚の群れが網に入ると、外来魚の割合は約80%以上と高くなります。1000匹以上も捕れたこともあります。

みんなで頑張って外来魚をくじょしたところ、2013年には外来魚の割合が半分以下になりました。そこで10月に、35号36号にイタセンパラの親を500匹放流しました。僕も放流しました。

ワンドに放流したイタセンパラは卵を産んで、翌2014年の5月に稚魚が出てきました。うれしかったです。その稚魚が大きくなってまた卵を産んで、今年の5月には、放流した魚の孫にあたるイタセンパラがワンドで大きく育っています。今ワンドの魚は、だんぜん在来魚が多いです。外来魚20%、在来魚80%と割合ははじめとは逆転しています。イタセンパラは秋に卵を産んで、今頃貝の中で成長していると思います。今年も稚魚がみたいです。

外来魚がかなり減り、イタセンパラも育ってきているのに、まだ活動を続けているのは、くじょワンドの範囲を少しずつ広げて、ワンド全体でイタセンパラを野生復帰させ、本来の淀川をとりもどすためです。この活動の目的は本来の淀川をとりもどすことで、外来魚くじょが目的ではありません。でもぼくは、本来の淀川を知りません。この活動でぼくが見たことなかった魚が増えて来ています。今は、淀川にたくさんいた魚がもどって来ている途中です。だから、ぼくはこの活動に参加し続けます。